

生徒の主体的な学びを促す「協同的探究学習」

主催 名古屋大学教育学部附属中・高等学校

「協同的探究学習」は、生徒が自分なりの方法で教科の内容を深く理解することと、思考のプロセスを表現することを促す、中高各教科で実践できる学習法です。また、仲間と話し合うことで、生徒が主体的に授業に関わろうとし、お互いの考えを聞くことで仲間を認め合うことのできる授業です。

東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生の講演の後、本校教員による実践紹介を行います。教科ごとに分かれたブレイクアウトルームでは、教科特有の課題についても意見交換を行います。

1 期日：2020年10月17日（土）13：30～16：00

2 対象者：小学校・中学校・高等学校・大学の教員(非常勤講師を含む)、教育委員会関係者

3 形態：オンライン（ZOOM）

4 申し込み方法：下記の「お申し込み用サイト」をクリックしていただくか、本校のウェブページよりお申し込みください。

お申し込みをいただいた方に ZOOM の ID とパスワードをお送りします。

ID とパスワードはお送りした方のみへのお知らせとなりますので、参加希望の方はそれぞれでお申し込みください。

→ [お申し込み用サイト](#)

5 参加人数限度：国語・数学・社会・理科・英語・芸術・体育の各教科15名まで

6 会費：無料

7 内容：

第1部 13：30～14：30

(1) 東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生による講義

「探究と協同を通じた子どもたちの『深い学び』

—協同的探究学習による発問の構成と思考や理解の深まりの評価—

<講義概要>

国際比較調査などの結果を分析すると、日本の児童・生徒の「できる学力」（知識・技能）の水準は高いが、「わかる学力」（思考プロセスの表現や深い理解）の水準は相対的に低いことが見えてくる。これからの時代に向けて国際的にも重視されている「わかる学力」や、自己肯定感・他者理解・学習観などの学びに向かう力・人間性を育むには、探究と協同（他者とともに学ぶこと）を通じて子どもたちの「深い学び」を実現する授業が必要である。そのような背景から小・中・高の先生方と各教科等の授業を通じて開発と実践を進めてきている「協同的探究学習」について、具体的な授業における発問の構成と、授業時の個々の生徒の記述内容などを分析して「学びの深まり」を評価する方法について解説と提案を行いたい。

<プロフィール>

京都大学大学院教育学研究科において博士（教育学）を取得。名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授などを経て現職。専門は、教育心理学、発達心理学。カーネギーメロン大学（アメリカ合衆国）客員研究員、日本学術会議連携会員などを務めてきている。

<著 書>

- ・『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために—』
（藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、ミネルヴァ書房、2018年）
 - ・『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』（単著、有斐閣、2012年）
 - ・『協同と探究で「学び」が変わる—個別的・ドリルの学習だけでは育たない力—』
（分担執筆、名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、学事出版、2013年）
- 他、多数。

（2）本校における取り組みの概要（本校教員）

第2部 14：45～15：45

- （1）国語・数学・社会・理科・英語・芸術・体育の各科に分かれて本校教員の実践紹介
（主に中学校の実践紹介を行います、小学校・高等学校に応用するヒントを含んでいます。）

意見交換

- （2）まとめの会（各教科での話し合いの内容を全体で共有して検討します。）

アンケート等 15：45～16：00

8 お問い合わせ 〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学教育学部附属中・高等学校 研究部長 石川

kumi@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

電話番号：052-789-2680（職員室）FAX 番号：052-789-2696